

授業科目	クリティカルケア看護学				実務家教員担当科目	○					
単位	1.	履修	選択	開講年次	4	開講時期	前期				
担当教員	財津 倫子										
授業概要	<p>実務家教員として冠状動脈疾患ケアユニット等の経験を生かし、以下の講義を行う。</p> <p>本科目では、救急・クリティカルケア看護を必要とする患者の「いのちを守るために必要な援助方法」を学ぶことを目的とし、学内での演習を通して展開していく。学内で、救急・クリティカルケア看護を必要とする患者・家族への迅速かつ適切な看護援助に対するアセスメントの基礎的な学習をグループワークで実施する。さらに、患者の観察、看護援助、学内で学びの共有をすることで救急・クリティカルケア看護の専門性について知見を深める。</p>										
授業形態	<ul style="list-style-type: none"> 講義 演習 		授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッション グループワーク プレゼンテーション 							
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 救急・クリティカルケア看護を必要とする患者及び家族の精神的ケアについて、危機理論・危機介入及び倫理的課題・倫理的調整を踏まえて説明できる (DP1-2, DP2-1) 救急・クリティカルケア看護を必要とする患者の「いのちを守る」ための看護の特徴を説明できる (DP2-1) 救急・クリティカルケア看護を必要とする患者の観察および看護援助について安全・安楽の観点から根拠を述べるができる (DP2-1) 人工呼吸器装着中の看護実践を体験し、知見を深めることができる (DP3-1, DP4-1, DP4-2) 救急・クリティカルケア看護の専門性について考察することができる (DP2-1, DP3-1, DP4-3) <p>行動目標 1~5 を修得できる</p>										
理想的レベル	<ul style="list-style-type: none"> 標準的なレベルも行動目標 1~5 の全てを達成したうえで、学習および体験を通して救急・クリティカルケア看護の重要性について述べるができる。 救急・クリティカルケアにおける人間の尊厳を与える看護について自らの考えを述べるができる。 										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合 (数値)				備考						
試験											
小テスト											
レポート	45%				レポート評価						
発表 (口頭、プレゼンテーション)	55%				グループワーク・発表・授業貢献度						
レポート外の提出物											
その他											
カリキュラムマップ (該当 DP) ・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU31605J
学習課題 (予習・復習)										1回の学習目安 (時間)	

講義中に課題を提示する。		1
授業計画		
第1回	<p>テーマ：救急・クリティカルケア看護学演習ガイダンス1（財津、高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者・家族の倫理的課題を説明できる。 ・医療従事者の倫理的課題を説明できる。 ・鎮痛・鎮静管理について説明できる。 ・危機理論、危機介入について説明できる。 	
第2回	<p>テーマ：救急・クリティカルケア看護学演習ガイダンス2（財津、高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者・家族の倫理的課題を説明できる。 ・医療従事者の倫理的課題を説明できる。 ・鎮痛・鎮静管理について説明できる。 ・危機理論、危機介入について説明できる。 	
第3回	<p>テーマ：危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題について、思考を深める。事例を検討する。1（財津、高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者、家族の倫理的課題、看護師の倫理的ジレンマの発生要因、看護師の対応のあり方 ・鎮痛方法、鎮痛評価 	
第4回	<p>テーマ：危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題について、思考を深める。事例を検討する。2（財津、高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者、家族の倫理的課題、看護師の倫理的ジレンマの発生要因、看護師の対応のあり方 ・鎮痛方法、鎮痛評価 	
第5回	<p>テーマ：人工呼吸器装着中の看護，1-①（外部講師：認定看護師、財津、高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器の構造と機能について学ぶ。 	
第6回	<p>テーマ：人工呼吸器装着中の看護，1-②（外部講師：認定看護師、財津、高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器装着中の全身管理について学ぶ。 ・合併症予防の看護について学ぶ。 	
第7回	<p>テーマ人工呼吸器装着中の看護，1-③（外部講師：認定看護師、財津、高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器装着中の全身管理について学ぶ。 	
第8回	<p>テーマ：人工呼吸器装着中の看護，2-①（外部講師：認定看護師、財津、高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工呼吸器の構造と機能について学ぶ。 ・人工呼吸器装着中の全身管理について学ぶ。 ・合併症予防の看護について学ぶ。 	
第9回	<p>テーマ：人工呼吸器装着中の看護，2-②（外部講師：認定看護師、財津、高橋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔ケア（口腔ケアを含む）、合併症予防（肺理学療法、体位ドレナージ）の看護について 	

第10回	<p>テーマ：人工呼吸器装着中の看護，2-③（外部講師：認定看護師、財津、高橋）</p> <p>・清潔ケア（口腔ケアを含む）、合併症予防（肺理学療法、体位ドレナージ）の看護について</p>
第11回	<p>テーマ：急性期看護学における、生命の危機的状況にある患者の看護（高橋）</p> <p>・脳神経・運動器・消化器・呼吸器疾患などの患者の病態・検査・看護について学ぶ。</p>
第12回	<p>テーマ：救急領域における、主要病態に対する救急処置とケア 1（財津）</p> <p>1. 外傷患者への対応やトリアージについて、解説する。</p>
第13回	<p>テーマ：救急領域における、主要病態に対する救急処置とケア 2（財津）</p> <p>1. 熱傷・中毒患者への対応について、解説する。</p>
第14回	<p>テーマ：全体講義のまとめ 学内での学びや体験を通して、救急・クリティカルケア看護の専門性について考察する。1</p> <p>クリティカルケア看護の学びを深め共有する。 （財津、高橋）</p>
第15回	<p>テーマ：全体講義のまとめ学内での学びや体験を通して、救急・クリティカルケア看護の専門性について考察する。2</p> <p>クリティカルケア看護の学びを深め共有する。 （財津、高橋）</p>
テキスト	特に定めない。必要時、資料等を配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	発表の機会を2回設けている。その講評でフィードバックを行う。
学生へのメッセージ・コメント	<p>既習の形態機能学、疾病論、基礎看護技術、成人急性期看護方法論、やヘルスアセスメントで学んだ内容について振り返っておくこと。</p> <p>・演習で使用する資料は、必要時演習前に配布します。</p>

- ・クリティカルケア看護学は、グループワークと講義を通して、クリティカルケア看護の重要性を考える科目です。卒業後の進路を含め、クリティカルケア看護領域に関心のある皆さんが選択することを期待しています。
- ・集中ケア認定看護師による実践的な講義を行います。実際の人工呼吸器を用いて、患者体験を行い、患者のおかれている状況を理解するとともに、その看護について学びを深めることができます。
- ・本講義は集中講義で行います。
- ・外部講師の予定により、日程変更の可能性がります。